

花で遊ぼう、 花から学ぼう。

伝統文化

こども

いけばな教室

今年で20年目を迎えた「伝統文化こどもいけばな教室」(以下:こどもいけばな教室)。華道家元池坊米沢支部が主催しているもので、子どもたちが花と触れ合いながら、四季折々のテーマにあわせて作品作りに挑戦しています。その様子を取材し、池坊米沢支部のみなさんに、開催の目的や指導するうえで大切にしている点などをうかがいました。



華道家元池坊で唯一、 こども向けの教室

会場の置賜総合文化センターには、子どもたちが次から次へと集まっています。「おはよう！元気があった？」

「今日もお花を楽しんでいてね」

池坊米沢支部のみなさんが笑顔で明るく、一人ひとりに声をかけます。あらかじめ参加の連絡をしている子どもたちは、受付を済ませると自分の席札を探して着席。授業が始まるまで、近くの席の友だちと楽しそうに話をしています。子どもたちにとって、学校とは違うもう一つの居場所のようです。

こどもいけばな教室がスタートしたのは2003年。その2年前に国の施策として文化芸術振興基本法が成立したことを受け、「伝統文化の素晴らしさを



「教室に入ってきたときは元気がなさそうでも、帰る頃にはみんなの表情も明るくなる。花の力は素晴らしいですね」と受付を務める、主任補佐の藤 伸子さんが教えてくれました

伝えていこう」という取り組みが全国で始まりました。こうした背景のもと、池坊米沢支部では「いけばな」という伝統文化に触れながら豊かな人間性を育んでもらいたいと、子ども対象のいけばな教室を開くことになりました。当時のことを知る支部長の**大野洋子**さんは「山形県

自由な発想で、 花と友だちになろう

この日のお題は「自分でテーマを考えていける」。一人ひとりの机の上にはガーベラ、オンシジウム、スプレーカーネーションなど8種類の花と木の実が用意されています。「草木とおしゃべりするようにいける」「色や大きさのバランスに気を付けて組み合わせる」「初めに『主役』を決めてから周りを花で埋めていく」など、いけ方のポイントを教えてもらってから作業に取りかかる子どもたち。用意された花器に、躊躇することなく黙々といけていく子、最初

いつから習っているの？ どんなところが楽しい？

1年生から。工作が好きだから、花を切ったり、作品にするとこ
小原 天寧さん(小2)

1年生から。自由に作れるところ
飯塚菜々実さん(小2)

3年生くらいから。自分の好きなようにできるところ
酒井 結乃さん(小5)

3年生くらいから。自由に長さとか変えられて、自分が好きな雰囲気に合わせることができるところ
濱田 紗奈さん(小6)



難しく感じることはある？

挿していくうちにいっぱいになりすぎたり、あとから付け足したりするのが難しい。花を分けたり、途中で切ったりすると使いやすくなるよ、と先生が教えてくれる
酒井葉月さん(小5)

この日の花材。オンシジウムやガーベラの華やかな色と、鮮やかな葉の緑色。見ているだけでわくわくするようです



用意された道具の中には、すこし変わったものが。子どもたちはどう使うのでしょうか

内の華道家元池坊で、こどもいけばな教室を開いているのは昔も今も米沢支部だけです。実は…1回目の教室に参加してくれたのはたった一人だったんですよ！と懐かしく振り返ります。「お友だちを連れて来てくれたり、ママ友のコミュニティの中で広まったり…。少しずつ人数が増えていきました。今ではこんなに多くの子どもたちが参加してくれて、本当にうれしいです」と、20年間に渡ってこの教室に関わってきた**後藤美子**さんも感慨深げな様子。対象は置賜地域に住む園児から中学3年生まで(園児は親の同伴が必要)。毎回、30人ほどの子どもたちがにぎやかに参加しています。



華道家元池坊米沢
主任・子ども伝統文化教室担当
後藤 美子さん



華道家元池坊米沢
支部長
大野 洋子さん





けてきた後藤さんも、その変化を実感しています。
ほっこりするエピソードも、毎回休まず参加してくれる4年生の男の子。いけた花は必ず学校に持って行って教室に飾っているそうです。クラスの仲間や先生が「とても素敵だね」「教室が明るくなるね」と声をかけてくれるという話を聞き、「指導する側も豊かな気持ちになった」と後藤さんもうれしそう。また、持ち帰った花は家族のコミュニケーションにも一役買っています。「教室で覚えてきた花の名前を家でも教えてくれる」と、お母さんたちから喜びの感想も届いているようです。

ばなを体験してもらおう機会に。今後は、本部主催のオンライン花展にも積極的

お忙しい中、取材に協力いただき、ありがとうございました。

「大人になっても、いけることに興味を持ち続けてもらえたうれしいですね」。活動を長く支えてきた佐藤くに子さんも、楽しそうに目を輝かせている子どもたちの姿に、目を細めていました。



華道家元池坊米沢副支部長 佐藤くに子さん

美しい文化を身近に感じて



『親子でふれあい いけばな展』

開催日
12月3日(土) 13:00~17:00
12月4日(日) 10:00~16:00
会場
よねざわ市民ギャラリー
(米沢市中央1丁目10番6号 ナセBA 1階)

入場無料



「世界に一つだけの作品を完成させていきます。活動は6月〜翌年1月までの半年間で、12回行われます。初めは、ハサミの使い方や与えられた花を観察するところから。花にも表裏と顔があることを伝えると、それまで関心のなかった子どもたちの表情が少しずつ変わっていきま



感じますね。挨拶など基本的な礼儀作法が自然に身に付き、残花の始末など整理整頓もしっかりとできるようになるんですよ。長年、子どもたちの様子を見続

習って良かったなと思うことは？

家のまわりでは見つけれない花を、この教室で目にすることができた。家のまわりの花もよく観察するようになった
松林 里紗さん(小6)

いけばなのこと最初はあまりわからなかったけど、いろんな花と出会えて、花の名前がわかるようになった
佐藤 空さん(小6)



今日の完成作品を見てどう？

花のお顔が上手に、かわいらしくできた
宮坂 美緒さん(年長)



今日もうまくできた！ 葉っぱをうまく挿せたところと目を付けたところ
小原 圭悟さん(年中)



今日の作品のポイントは何？

大胆に！ 華やかに！！
島貫 陽向さん(小5)

中心の赤の周りに強弱をつけながらいけてみた
武田百合子さん(小5)

何も考えずに作ったらこうなった。赤い花がポイントです！
山田 結夢さん(小6)



この日の講師を務めた二人。「基本的なことはもちろん、楽しくいけてもらうことを大事に教えています」と言うのは佐藤 裕子さん。木村 寿美子さんも「花をもっときれいに見せるための方法や花の活かし方を伝えていきたい」と話します

Let's try 家でも花を楽しもう！

材料

- ・花器(身近なものを活用！グラス、コーヒーカップ、皿、サラダボウルなど)
- ・剣山、またはオアシス(水を吸うスポンジ)
- ・花材

やってみよう

最初は、少なめの花(3種類)で形を整えるところから始めましょう。



次に、花の置く場所を考えます。縦長・横長・斜めと形を決め、花の正面が前を向くように、高低差をつけていけるように。

おすすめの花

バラ、スプレーカーネーション、シャガなど

伝統文化こどもいけばな教室

活動日 月に1~2回(土曜日) ※来年度の受付は2023年5月1日開始
会場 置賜総合文化センター 時間 9:30~11:30
教材費 1回800円(花代として) 持ち物 筆記用具、デッサンノート、タオル
対象 置賜地域在住で、園児~中学3年生(園児は親の同伴が必要)

問い合わせはいつでもどうぞ！

電話 090-2020-7977(担当 後藤美子さん)
090-2798-4769(支部長 大野洋子さん)